

事業のタネシート

活動地域・団体名：宮城県石巻市 一般社団法人Reborn-Art Festival

事業名称 1：アート・ローカルベンチャーの推進によりシビックプライド・地域循環経済の向上を		
あらすじ		
利益追求型経済ではなく持続可能な循環型経済を志向する「ローカルベンチャー」や経済合理性から離れた「アート」の活躍の場や担い手拡大を図ることによって、市民が自分の地域に対する誇り＝シビックプライドを持てるようにするとともに地域循環経済の向上を目指す。あわせて震災ボランティアをきっかけとした移住者や震災後の新しい動きの定着を目指す。		
ストーリー		
石巻市の基幹産業は水産業ですが、長らく"3K"産業として担い手の不足に苦しむとともに、食における魚離れなどにより斜陽産業化が進んでいました。また、国策から始まった製紙産業を始めとした工業や製造業も重厚な設備を有し地域経済を支える割合が高かったものの東日本大震災での被災もあり近年苦しんでいます。これらの産業は多くがBtoBであり、規模の大きさに割に市民にその実情が見えにくかったということがその原因の一端であるかもしれません。一方、経済合理性から離れたアートや、近年元気のある地域において注目されるローカルベンチャーは従来の効率第一主義や縦割り組織から離れ、モノゴトを見る視点に変化をもたらします。そのようなアートやローカルベンチャーを推進することで、地域を「面白く」し、シビックプライドを醸成し、人材や資源が外部に流出することなく地域内で循環する状態を目指します。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	市民が固定観念に囚われずシビックプライドを持って地産地消に取り組むとともに地域経済の担い手として自由闊達に活躍する状態を増やす。	震災以前からの担い手と震災後の新しい担い手との間に十分な接点が無く、お互いの活動内容をよく知らず、敬遠し合う雰囲気。復興期間の終了とともに限られていく公的支援などを奪い合う疑心暗鬼の状況。
②課題	水産業や工業など地域の主要産業の実態が見えにくく、担い手確保や地域における消費が十分でない。震災を契機にアートやローカルベンチャーなどの新しい動きが市民に十分認知されていない。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	被災地において震災前から停滞していた基幹産業がさらに停滞し、せっかく素晴らしい資源や設備があるのに市民がそれを十分認知できていない。間もなく迎える震災十年を前に、記憶の風化を防ぐ必要がある。	
④地域資源	震災後に生まれた新しい生業や働き方である「ローカルベンチャー」。RAFを契機に地域に移住した若い「アーティスト」。もともとある「水産や工場設備など」の地域資源。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	基幹産業を中心とした従来の経済の担い手と、ローカルベンチャーやアーティストなど新しい担い手との交流の場を設け、お互いのリソースを活かしたインキュベーションを探るとともに、市民にも地域資源の可能性を知ってもらう機会を設ける。	
⑥担い手 (Who)	ISHINOMAKI2.0・合同会社巻組(ローカルベンチャー支援)、株式会社元気のまき・石巻市産業推進課(従来事業者と新規事業者の接続、商品販売)、石巻のキワマリ荘・ART DRUG CENTER(アーティスト支援)、石巻人事部(人材教育意識改革)、フィッシャーマンジャパン(新しい漁業)	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	高付加価値化した「水産資源」の流通、既存産業への新しい「担い手・労働力」、新しい主体である「ローカルベンチャー・アーティスト」の市民への理解向上、工場の並ぶ風景を見直す「観光客」「シビックプライド」獲得。	新しい主体と従来からの主体との間の通訳的存在。両者のリソースを上手くコラボレートさせるクリエイティブディテクター
⑧事業で生じる成果	アートやローカルベンチャー的視点を加えることで、元々ある製紙工場や水産工場の持つ価値を市民が見直し、シビックプライドを高めることで、地域・域外への地域製品の販売力を高め、就業者や担い手を獲得する。震災後の移住者が定住することによる地域人口・関係人口増加。	

事業名称 2 : 有害駆除の対象だった鹿の食肉加工販売を通じた持続可能な自然環境醸成		
あらすじ		
増えすぎた鹿のジビエ食材化とネイチャープログラム開発、猟師の担い手育成。		
ストーリー		
食害をもたらす有害駆除の対象である鹿は、猟師の高齢化・担い手不足に伴って草木を食べつくすなど自然環境に深刻な問題をもたらしていました。適切な処理を行うリソースもないためこれまで駆除した鹿を仕方なく埋設処理を行っていましたが、RAFを契機として設けた鹿肉加工施設と、全国の一流シェフから高い評価を有する“食猟師”小野寺氏の力で高い付加価値を持つジビエ食材とし、また鹿肉を使ったシャルキュトリーを開発することでギフト商品などとしても販路獲得を目指します。加えて牡鹿半島の豊かな自然を体験するネイチャーガイドプログラムを実施し、命をいただくということ、自然を循環させるということへの理解を深めます。事業を通じて猟師の担い手を育成し、持続可能な形で森林を保持します。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	牡鹿半島の鹿肉を高い価値を持った「ジビエ食材」として流通させ、全国の一流料理人が扱うブランド食材とする。併せて鹿の適切な個体数管理がなされ、森林が保持されるとともに、牡鹿半島の自然環境の魅力を認知してもらう。	十分な販路。猟師の補助者や加工をサポートする人材不足。プロフェッショナルには一定の評価が得られているが一般化していると言えない鹿肉の評価。
②課題	猟師の高齢化、担い手不足。鹿が増えすぎたことによる食害、森林の疲弊、地崩れ。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	増えすぎた鹿をジビエ食材として高い価値を持たせるべく、適切に処理し流通させ、新しい生業を地域に創出するとともに自然環境を保持したい。	
④地域資源	「鹿肉」。「牡鹿半島の自然」。「鹿肉処理加工施設」。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	適切に狩猟・加工処理することでジビエ食材として価値の高い鹿肉を一流シェフに扱ってもらう。鹿肉を使ったシャルキュトリーなどを開発・販売する。牡鹿半島の自然を楽しむネイチャーガイドプログラムを開発する。	
⑥担い手 (Who)	株式会社FERMENTO(狩猟・鹿肉処理)、株式会社元氣いしのまき(シャルキュトリー販売)、石巻観光協会(ふるさと納税)	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	鹿の個体数が適切に管理されることによる「野山」の保全。ジビエ食材として流通する「鹿肉」。鹿猟師の「担い手」。	マーケティングの専門家。一般にも訴求しうるPR媒体。エシカル消費などの観点からお取扱いいただける企業。
⑧事業で生じる成果	鹿肉が価値を持ったジビエ食材となることで石巻に新しい名産品が生まれ産業となるとともに雇用を創出する。猟師の後継者・担い手が現れ、持続可能な形で鹿の個体数が管理される。	

事業名称 3 : リボンアート・フェスティバルを核とした石巻・牡鹿半島の日常的デスティネーション化

あらすじ

RAFによって設けられた常設アート作品や施設、震災伝承プログラム、新しいアクティビティなどをコンテンツとしてツアーや研修・ワークショッププログラムを設け、石巻・牡鹿半島にRAF会期外でも日常的に来訪者が訪れ、地域でお金を消費・循環するようになる。

ストーリー

震災前からいち早く人口減少が進み、交流人口の獲得にも苦戦していた石巻・牡鹿半島。RAFの開催エリアの一つ桃浦地区の様にそのような現状に課題意識を強く持ち、人に戻ってきてほしいと地域の方が強く願うところもありました。RAFは2度の本祭でいくつかの作品を常設として残しており、特にWhite Deer(Oshika)はそれを目的に週末を中心に人が訪れるようになっていきます。そうしたアート作品や、震災後にローカルベンチャーが始めた体験アクティビティ、語り部などの震災伝承コンテンツを内容として、海外富裕層を対象とした高額商品を含むツアーや、企業の幹部候補研修、ワークショップなどの商品を開発し、日常的に石巻・牡鹿半島に人が訪れ地域でお金を消費する状態を目指します。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	RAF本祭の際のみならず、人々が日常的に石巻・牡鹿半島を訪れ、そこで楽しい経験や学びを得られるようになる。コロナが落ち着いた際には海外を含め多くの方が地域を訪れお金を消費する。	域内公共交通の脆弱性。知名度の不足。サインや店舗において多言語対応がなされていない。交通や飲食・宿泊業、自然保護区などにおける許認可。コロナ禍。
②課題	現状2年に1度のペースで実施している芸術祭本祭の際には多くの観光客に訪れてもらっているが、本祭会期外は震災から時を経るほどに石巻・牡鹿半島への客足が鈍っている。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	日常的に石巻・牡鹿半島が目的地足りえる場所となり、震災後生まれたアイデアに触れその魅力を感じていただくとともに、震災の経験を風化させないようにしたい。	
④地域資源	これまでのRAF本祭によって設けた常設の「パブリックアート」や広場などの「公共施設」「宿泊研修施設」、「震災伝承コンテンツ」、ローカルベンチャーが起業した様々な「体験アクティビティ」。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	常設作品やRAFが設けた各種施設、震災伝承コンテンツ、マリンスポーツやものづくりなどの体験アクティビティをコンテンツとしたツアーや研修、ワークショッププログラム。	
⑥担い手 (Who)	元気いしのまき (お土産販売)、日本カーシェアリング協会 (二次交通)、ISHINOMAKI2.0(ローカルベンチャーコーディネイト・ワークショップ開発)、石巻人事部 (研修プログラム)、観光ボランティア協会・石巻Newsee (震災伝承・語り部)、国際サークル友好21・国際交流協会 (通訳ガイド)	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	観光客や研修利用者が地域で消費する「お金」、風化させない「震災伝承」、ガイドなどによる「生業」、海外の方を含めた「交流」	MaaSなど先進モビリティの専門家。ツアー商品・研修商品の販路に関するマーケット専門家。地域内外国語話者の人材バンク・研修などを担えるコーディネーター。規制緩和や社会実験・特区などの知見を有する方。
⑧事業で生じる成果	日常的に観光や研修で石巻・牡鹿半島に人が訪れるようになることによって観光業経済が循環するようになり、また、体験型のコンテンツを充実させることによって関係人口が増加する。	